

# エンターテインメントエデュケーションを活用した家庭教育事業の実施と評価（第2期）

伊藤純子：聖隷クリストファー大学 高橋佐和子：神奈川県立保健福祉大学  
新村智世，北村 聡：浜松市役所子ども家庭部次世代育成課



## 家庭教育力の格差が子どもの健康格差につながっています

### 家族の変化による「家庭の孤立化・情報選択の困難」

- ・核家族化、近所付き合いの希薄化、共働き家庭・ひとり親家庭・貧困家庭の増加
- ・家庭教育に関して身近に相談できる相手を見つけることが難しい孤立の傾向
- ・家庭教育に関する多くの情報の中から適切な情報を取捨選択する困難さ

### 子どもの生活習慣の変化による「健康問題」

- ・夜型化、睡眠時間の不足、朝食欠食や夜食の摂取頻度の増加、運動時間の減少
- ・子どもの生活習慣病の増加、学校生活に適應できない子どもの増加

平成29年文部科学省：家庭教育支援の推進方策に関する検討委員会「家庭教育の具体的な推進方策について」より

子どもの心身に健康問題を生じさせる可能性が高い家庭は講演には参加しないことが多い

**目的** 健康に関する学習機会への参加意欲の低い保護者層に焦点を当てて、  
未就学児の保護者を対象とした健康教育プログラムを開発する。

## プログラムの特長：ネットワーキングとピアサポートの促進

Entertainment-Education（河村,2013）

講義＋ゲーム感覚のワーク＋体験の共有

- ・保護者の気持ちを代弁する
- ・先輩の体験や感動を共有
- ・相互の交流を促す



## アンケートの結果：“みんな同じ悩み” “初めて話しができた”

浜松市内の保育園・子ども園5園の保護者(108名)を対象に家庭教育講座として実施し、終了後に、保護者に質問紙調査をお願いして感想を伺いました。

図1 すごろくは面白かった

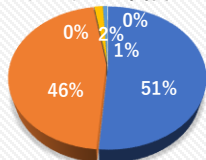
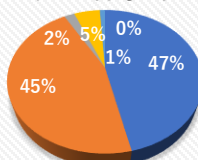


図2 すごろくの目的がわかった



- かなりそう思う
- そう思う
- どちらかというと思う
- どちらかというと思わない
- そう思わない
- 全くそう思わない

すごろくについての感想：「他のお母さんたちと意見を共有することができ、その時は怒ってしまうようなことも笑い（自由記述）話になっていた」、「みんな同じ経験をしているのだと思うと心強く、あるあるー！と面白かった」、「親同士のコミュニケーションをとるツールにもなって良かった」

## 考察

**参加者の評価は高く、一定の効果を得たと考えられます。**

今後はプログラム内容を洗練し、開発した教材の一般への普及を目指します。  
市と連携し「つながりを育む場」としての機能を強化して行きます。